

令和元年度 瀬谷西高等学校 不祥事ゼロプログラム 検証結果

【評価基準】

- A 行動計画を完全に実施し、事故・不祥事防止に十分な成果があった。
- B 行動計画を実施し、事故・不祥事防止の成果があった。
- C 行動計画を実施したが、事故・不祥事防止に効果的でなかった。
- D 行動計画の実施が不十分であった。

<共通課題> ① 法令遵守意識の向上

目標		達成事項		推進担当:キャリア活動支援G	
行動計画		達成事項		反省点・課題	
目標 公務員として、県民の信頼を失うことのないよう、公務外非行の発生を未然に防止する。					
i	今年度も引き続いて、公務外非行に関する事故・不祥事やヒヤリハットの事例集を作成・配付し、事故・不祥事の未然防止を図る。	10月(公務外非行防止について)、2月(職員の服務・職員行動指針)の事故防止会議において、具体的な事例を紹介し、公務員としての自覚と危機管理の意識を啓発した。また、平成30年11月に公務外非行に関する事故が発生したことから、外部講師による公務外非行に係る事故防止研修を実施するなど学期ごとに日常点検を実施した。		教育公務員として高い倫理観と道徳観をもって、日常的に職員行動指針に基づいた意識の向上が高められるよう継続していく必要がある。	
ii	通常の職員の服務についてだけでなく「職員行動指針」についても職員に周知徹底し、様々な事故・不祥事を未然に防ぐとともに、不祥事に対して適切な対応をとれるようにする。	事故防止会議において、不祥事ゼロプログラムを推進するため、各グループごとに職員が講師となり説明することで、より主体的に取り組みが進むよう工夫した。また、教育公務員としての高い倫理観と危機管理意識の啓発を実施した。		職員行動指針や不祥事3か条を今一度心に刻み、使命感と責任感を持って、県民への信頼回復に努めていく必要がある。今後もより意識が高められるよう継続していく必要がある。	

<共通課題> ② セクハラ・わいせつ行為の防止

目標		達成事項		推進担当:生徒活動支援G	
行動計画		達成事項		反省点・課題	
目標 教職員の人権意識を高め、セクハラ・わいせつ行為を未然に防止する。					
i	令和元年9月に全職員にスクールセクハラの啓発資料を配付し、セクハラ・わいせつ行為の防止を啓発する。	9月の事故防止会議に日常点検チェックを実施するとともに、セクシャル・わいせつ行為防止にかかる研修会を通してセクハラ・わいせつ行為防止に関する意識啓発を行った。		今後もより意識が高められるよう工夫した研修会の実施をして意識の向上に努力する必要がある。	
ii	令和元年9月にスクールセクハラ自己チェックを実施し、スクールセクハラ防止の啓発を図る。	同上事故防止会議で「STOP! ザ・セクシャルハラスメント」を配布し、自己チェックを実施した。また、教育実習生に対しても啓発資料を配付し研修を実施した。		今後もより意識が高められるよう工夫した研修会の実施をして意識の向上に努力する必要がある。	
iii	部活動インストラクター、教育実習生等に対しても、人権意識に関する注意を喚起する。	校長面接終了後に、部活動指導ハンドブック(部活動インストラクター編)を配布し注意を喚起した。教育実習生に関しては管理職及び指導教諭から注意を喚起した。		把握が不十分な部分もあるため、日常的に、管理職や顧問で見えていく必要がある。	

<共通課題> ③ 体罰・不適切指導の防止

目標		達成事項		推進担当:生活指導G	
行動計画		達成事項		反省点・課題	
目標 体罰や不適切な指導の発生を未然に防止する。					
i	平成30年7月までに体罰や不適切な指導等の防止や指導の基準に関わる啓発資料等を職員会議等で配付し、意識啓発を図る。また、さまざまな場面を想定したケーススタディなども取り入れる。	7月の事故防止会議で「事例から考える」<部活指導と体罰>を配付し、意識啓発を行った。		今後もより意識が高められるよう継続していく必要がある。	
ii	生徒指導等の際には、複数の職員であるなど、適切な対応を行う。	本校の「生活指導の手引き」の基準に従い、きめ細かく丁寧な指導・対応を行った。		生徒指導等の際には、複数の職員であるなど、様々な事例に対して適切な指導、対応がなされた。	

<共通課題> ④ 成績処理及び通知票や進路関係書類の作成及び取扱いに係る事故防止

目標		達成事項		推進担当:学習G及びキャリア支援G	
行動計画		達成事項		反省点・課題	
目標 成績処理及び通知票や調査書等の発行に係るミス無くす。					
i	学期末の成績処理に係る点検項目を明確に示し、誤入力や点検漏れ防止の徹底を図る。また、日常の担当者個人段階でのミスをなくすよう注意喚起する。	成績処理日程及び成績処理マニュアル(チェック欄含む)を作成し、全職員で読み合わせ、内容を周知した。		成績処理期間における成績のチェック体制は十分であるが、日常における担当者個人の段階での確認作業のさらなる徹底が必要である。なお、定期テストに関するヒヤリハットがあった。次年度に向けマニュアルによる徹底を図る必要がある。	
ii	成績処理支援システムに関するマニュアル兼用のチェック表を十分に活用し、円滑な運用に向けた研修会を開催する。	6月の事故防止会議及び各学年会において成績処理、通知表、調査書等の事故防止の徹底を図った。		単純なミスが起こらぬよう丁寧に対応する必要がある。	
iii	進学・就職・推薦それぞれの調査書点検に関するマニュアル兼用のチェック表を活用し、担当者対象の説明会等で周知する。	学事学習G・キャリア支援G・3学年が密に連携を取りつつ、マニュアル兼用のチェックシートを学年会で周知徹底した。		昨年度推薦書発行に伴うヒヤリハットがあったことを受け、回覧の際の添付資料の確認など、事前打合せを徹底して丁寧に対応する必要がある。	

<共通課題> ⑤ 個人情報等管理、情報セキュリティ対策

目標		達成事項		推進担当:総務・管理G	
行動計画		達成事項		反省点・課題	
目標 情報セキュリティ対策を充実し、個人情報の流出を未然に防止する。					
i	平成31年4月に情報セキュリティに関わる規則等を職員会議等で全体に周知し、個人情報等の管理の徹底を図る。	年度当初の事故防止会議において、基本的な情報セキュリティに関する事項について確認し、個人情報の管理及び、情報発信についての徹底を図った。		情報セキュリティに係る個人の技量を高め、全員で確認しあうことが大切である。	
ii	令和元年9月までに公務用端末等を整理し、台帳及び管理簿等の確認を行う。	行政事務調査に向けてUSB等の台帳及び管理簿の確認を行った。		全外部記録媒体等の棚卸を実施した。今後も貸出し状況について、必要最低限に抑える努力が必要である。	
iii	令和元年12月までに校内ネットワーク運用規定を点検し、校内ネットワーク使用における情報セキュリティ対策の充実を図る。	行政事務調査に向けて校内ネットワーク運用規程を点検し、打ち合わせにて共有した。		ネットワークの運用について、職員に対して細かい記載が必要である。	
iv	学校ウェブサイトにおける個人情報・著作権・肖像権に十分配慮して、常に最新の情報になるよう更新に努める。	日常的な注意喚起を繰り返すとともに、最新の情報にあるよう適切に更新を行った。		学校広報に必要な情報を職員が適切かつ積極的に発信できるような運用細則が必要である。	